

わくや

3月会議号
2018.5.15
No.193

議会はここに注目……………〈30年度予算〉 2
町の重点施策……………〈施政方針〉 4
議員が徹底審査……………〈予算審査特別委員会〉 6
町政を問う9人の提言……………〈一般質問〉 12
輝くみなさんの声……………〈キラキラVoice〉 24

『おべんとう給食スタート』

町内3幼稚園で、4月からおべんとうとおつゆの給食が始まりました。
(写真は南幼稚園にて)



般計 71億3256万円

平成30年
3月会議

歳入

町税 14億6503万円

地方交付税 28億5025万円

※財調取り崩し 2億5900万円

※財政調整基金…財源の過不足を調整し、健全な財政運営を行う積立金。

30年度予算

3月会議は、3月8日から16日までの9日間の会期で開催されました。
本会議では、人事案件3件、条例改正など19件、指定管理者の指定2件、平成29年度補正予算11件、平成30年度予算9件の審議を行い、全て原案どおり可決しました。

子育て・教育

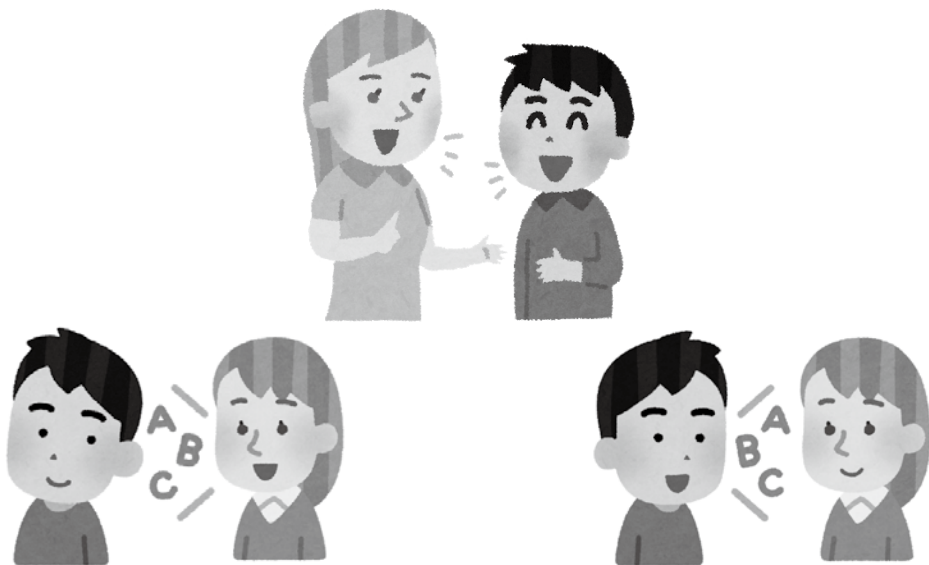


幼稚園でおべんとう給食の配食を行う。

幼稚園給食配食事業

1245万円

一般質問では9人の議員が12項目の質問を行い、今後のまちづくりについての見通しや、新教育長の考えを質しました。
平成30年度予算の審議にあたっては、予算審査特別委員会を設置し、事業の進捗管理の徹底、予算の適切な執行について議論が交わされました。



町内の中学生を対象に、少人数でのグループワークを通して、特に「聞く・話す」能力の向上を目指し、英語で課題を考える力を育む。

イングリッシュ・キャンプ事業

300万円

誇れるまちづくりに

一
会

少子化対策 定住人口の獲得

が柱

人口減少社会への適応

30
年
度
予
算

協働・定住



移住定住を促進し人口減少の抑制を図る。

- ・転入者の住宅取得・賃貸住宅入居に係る費用の一部を補助する。子育て世帯加算あり。
- ・結婚に伴う住宅購入や引っ越し費用の一部を補助する。

わくや新生活応援補助事業 1000万円

安心・安全



道路施設の点検や舗装の打替などを行う。
(箕岳山線実施設計、大谷地線改良工事など)

道路新設改良事業 1億1645万円

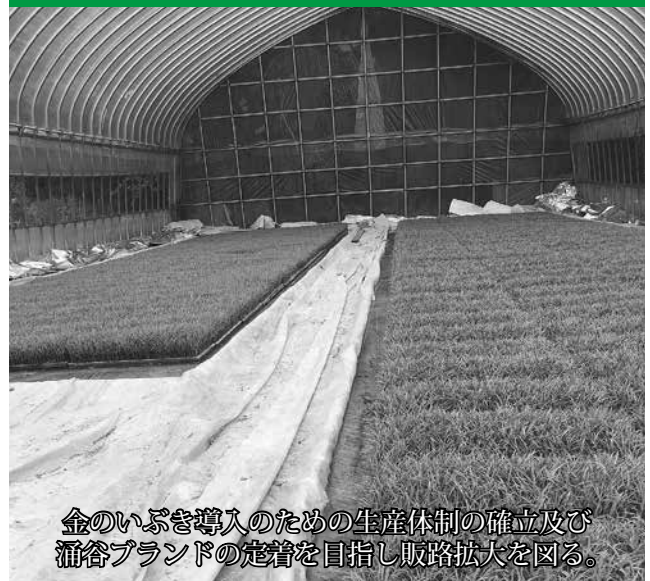
健康・福祉



健康推進員の育成、生活習慣病予防対策。

健康づくり推進事業 395万円

産業の振興



金のいぶき導入のための生産体制の確立及び
涌谷ブランドの定着を目指し販路拡大を図る。

ブランド米創出事業 380万円

※議会だよりわくやに掲載している事業費については、万円未満を切り捨てて掲載しています。

企業誘致は 町長自らのトップセールスと 職員の積極的な誘致活動の 2段戦略で



施政方針を述べる大橋町長

一般会計の主な施策・事業

1 子どもの成長支えるまちづくり

- 伝統芸能の継承やふるさと交流事業の充実。

→ 総合的な学習の支援事業

91万円（継続）

- 児童生徒の不登校対策・心のケア・早期学校復帰支援・学習支援など。

→ わくや子どもの心のケアハウス運営事業

718万円（新規）

- 川崎市ふれあいサマーキャンプの受け入れ。

→ 青少年地域間交流事業

2万円（新規）

2 健康長寿に向けたまちづくり

- 大崎市民病院・石巻赤十字病院救命救急センターと夜間急患センターの運営に参画。

→ 地域医療対策事業

3708万円（継続）

- 障がいの種別を問わない総合的な相談支援。

→ 基幹相談支援センター事業

730万円（新規）

- 地域包括ケアシステムの構築推進。

3 交流が豊かさを育むまちづくり

- ほ場整備の推進。

（出来川左岸上流、下流、名鱈、鹿飼沼地区）

→ ほ場整備事業

7931万円（継続）

- 農地利用最適化・集約化の推進。

→ 農地集積・集約化対策事業

1500万円（継続）

- 集落組織で行う共同活動を支援。

→ 多面的機能支払交付金交付事業

8332万円（継続）

- 金の歴史の出発地「日本遺産」登録を目指す。

→ 文化財活用普及事業

191万円（新規）

- 鹿飼沼地区 7 遺跡埋蔵文化財調査。

→ 埋蔵文化財調査事業

243万円（新規）

- 2020年伊達安芸宗重公没後 350年祭の後押し。

4 安全で快適な環境のまちづくり

- 温室効果ガス抑制対策計画を策定。

→ 地球温暖化対策実行計画策定事業

998万円（新規）

- LED防犯灯の整備を進める。

→ 防犯灯設置事業

400万円（継続）

- 町営淡島住宅の一部解体工事。

200万円（新規）

- 住民参加型総合防災訓練。

5 協働による自立したまちづくり

- 町民が主体的に活動できる「町づくり」の推進。

→ 元気わくや創生補助事業

40万円（新規）

→ 自治会活動支援事業

199万円（継続）

→ 地域づくり活性化事業（地域世代間交流事業）

25万円（継続）

→ 地域づくり活性化事業（集会所等整備事業）

100万円（継続）



病院事業管理者 大友和夫氏

新たな病院事業管理者に大友和夫氏が就任

青沼孝徳前病院事業管理者の後任として、大友和夫氏が町民医療福祉センターの病院事業管理者に就任しました。任期は平成30年4月1日から4年間です。

町民医療福祉センター 平成30年度重点施策

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 第2次わくや健康ステップ21計画の推進 | 6 新涌谷町町民医療福祉センター国民健康 |
| 2 健康づくりを支える地区組織活動の強化 | 病院改革プランの推進 |
| 3 障がい者地域生活支援拠点(結いの郷わくや)事業の推進 | 7 在宅復帰・在宅療養支援機能の強化 |
| 4 地域支援事業の推進 | 8 利用者の生活に寄り添う、丁寧で暖かいケアを提供 |
| 5 子育て支援事業の推進 | 9 医療福祉センター30周年記念事業の実施 |

特別会計運営方針ピックアップ

国民健康保険事業勘定特別会計

生活習慣病の重症化予防(動脈硬化対策)。
→保健衛生普及事業

410万円(継続)

特定健診の受診率向上と、生活習慣病の
早期発見・早期治療。

→特定健康診査事業

2506万円(継続)

介護保険事業勘定特別会計

地域の支え合い体制づくりを推進する
(要支援者等を支援)。

→介護予防・生活支援サービス事業

2504万円(継続)

かるがるプラザ・あすこす元気塾・

脳力アップ倶楽部

→一般介護予防事業

508万円(継続)

軽度認知機能障害の早期発見(認知症や
生活習慣病の重症化を防止)。

→認知症リスク調査事業

879万円(継続)

※高齢者にバランスの摂れた食事を提供
する。

→配食サービス業務委託事業

320万円(継続)

水道事業会計

追戸中継ポンプ場更新工事。

→基幹施設耐震化事業

1億3000万円(新規)

老朽管及び設備等の更新。

(中野一・桜町裏・岸ヶ森西地内)

→老朽管更新事業

5080万円(継続)

下水道事業会計

下水道事業(公共・農業集落)会計
地方公営企業法の一部適用。

下水道未普及箇所に、污水管渠敷設と公
共柵を設置(新規接続の促進)。

→公共下水道(污水)未普及解消事業

500万円(継続)

排水路整備(アルプス電気涌谷工場北側
からJR石巻線上築街道踏切下流部に向
けて)。

→公共下水道(雨水)雨水排水施設整備事業

4204万円(継続)

※様々な理由により、十分な食事を準備することができない方が対象。

予算審査特別委員会

予算審査特別委員会を設置し、平成30年度各事業会計の当初予算を審査しました。
主な質疑と答弁をお知らせします。



予算審査特別委員会 門田 善則 委員長

予算審査

一般会計

歳入

竹中 弘光 委員

センター長医師住宅有効活用で歳入確保を

問 施政方針の中で、財政が厳しいと

あったが、前町民医療福祉センター長の住宅を貸家にしたり、売却するなどの考えは。

答 母屋の部分は病院事業会計の財産で

あり、一般会計には該当しない。今後、医師住宅は有効に活用する。

佐々木敏雄 委員

工業団地造成地は

完売できるのか

問 黄金山工業団地の

売り払い収入として、5000万円を計上しているが、目当てはあるのか。

答 早期完売に向け努力していく。

歳出

総務課

久 勉 委員

職員の処遇改善取り組み状況は

問 県内でも下位の状況にあるラスパイ

レス指数の現在の状況は。また、幼稚園教諭や介護職などの正職員と嘱託職員の処遇較差について、改善の状況は。

答 ラスパイレス指数は平成29年度で県平均を0・6ポイント下回っている。

処遇改善については、
※平成32年度に雇用体系の改善があるので、それに向けて準備していく。

只野 順 委員

臨時職員の処遇改善

問 長期間にわたり町に勤務している臨時職員について、処遇改善に向けた対策を。

答 臨時職員を雇用する際には、各課から次年度の雇用計画を出すようになっていく。今後も実態をよく把握し、対策を立てていきたいと考えている。

問 臨時職員を雇用する際には、各課から次年度の雇用計画を出すようになっていく。

答 臨時職員を雇用する際には、各課から次年度の雇用計画を出すようになっていく。

問 臨時職員を雇用する際には、各課から次年度の雇用計画を出すようになっていく。

佐々木みさ子委員

防犯灯設置

今後の考えは

問 防犯灯設置計画は。

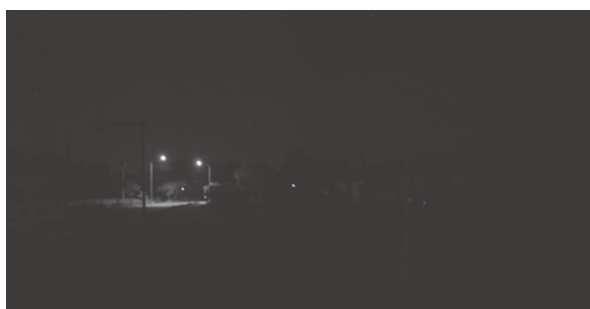
答 今後の計画は、涌谷橋までと、ゆうらいふ前の道路の照明の増設をしたいと考えている。

只野 順 委員

町長交際費使途の公開を

問 町長交際費を300万円にする規定はあるのか。透明性の観点から町長自ら公開すべきでは。

答 支出の基準は定められている。使途、目的の公表は当然と考える。



ゆうらいふ前 夜は真っ暗で足下がキケン

※地方公共団体が雇う臨時職員に対する任用制度。平成32年4月開始。

教育総務課

鈴木 英雅 委員

イングリッシュユキキャンプ

詳細は

問 中学生海外研修の代わりに、新規で行う事業であるが、対象学年、実施時期、内容は。

答 対象学年は主に3年生の20人程度で、8月に3泊4日で行う予定である。ALTと共に少人数のグループワークを行い、「聞く、話す」能力の向上を目指す。

遠藤 釈雄 委員

イングリッシュユキキャンプ 実施のねらいは

問 英語力の向上を図ろうとする、この新規事業の目的は。今後、本事業の目的を高めるためのフォローアップ事業を行う考えは。

答 川崎市の小学生が、浦谷町で体験学習を行う事業であり、史跡めぐりや籠峯寺での座禅体験などを予定している。助成については、今後検討していく。

答 英語能力を高め、英語で課題に取り組み、提案力を身に付けたグローバルな人材を育てたい。

中学生による、外国人への観光ガイドなどに発展できれば、と思っっている。

生涯学習課

大泉 治 委員

川崎市ふれあいサマーキャンプ 参加費用の補助を

問 交流を通じて様々な効果が期待できる事業であるが、参加者が費用を全額負担する。事業を続けていくためにも、費用の一部を助成できないか。

答 川崎市の小学生が、浦谷町で体験学習を行う事業であり、史跡めぐりや籠峯寺での座禅体験などを予定している。助成については、今後検討していく。

後藤 洋一 委員

総合型スポーツクラブ 今後の考えは

問 少子化の影響もあり、部活動の部員確保が難しくなってきた。昨今の現状を考え、部活と地域スポーツクラブの一体化を進めていくことが必要と考えるが。

答 地域の方々といろいろなスポーツを通じながら、レクリエーションや地域の融和につなげていきたい。

企画財政課

竹中 弘光 委員

地域おこし協力隊 今後の考えは

問 地域おこし協力隊の活動状況と、隊員の定住に向けた対策は。

答 平成30年度は主に、浦谷町の①食をつなぐ・伝えるツアーの企画②食の流通事業の法人化③既存施設や観光名所を活用したイベントの開催の3つの活動を予定している。最終的には、定住を望んでいる。

健康課

杉浦 謙一 委員

不妊治療助成 町内の実績は

問 特定不妊治療助成金事業について、人数の見込みと対象は。

答 この事業は、県の助成を受けている方に、町から上乗せして助成するもので、平成30年度は5人（1人あたり年2回、計10件）と見込んでいる。



予算審査

予算審査

まちづくり推進課

鈴木 英雅 委員

**移住定住者増へ
申請手続き一元化を**

問 本町に移住定住するには、多くの申請手続きが必要となる。申請の簡素化が必要と思うが。

答 定住支援と結婚新生活支援の2つの事業があるが、事業名を統一し、1枚の申請書で申請が可能となっている。

杉浦 謙一 委員

**公衆トイレ
清掃ごまめに**

問 城山公園のトイレ清掃の頻度は。

答 桜まつりの時期は毎日だが、通常は週2日としている。委託業者と巡回の回数を検討し、清掃に努めていく。

農林振興課

後藤 洋一 委員

**和牛全国共進会
町内から入賞牛を**

問 評価の高い系統雌牛郡(第2横利系)の保留を進め、次回の鹿児島大会に向けて、入賞を目指すべきと考えるが。

答 現在開拓中の優秀な種雄牛を地域にとどめるよう、対策を持つべきであると考えている。

佐々木みさ子 委員

**事業費の有効活用
周知の徹底を**

問 園芸特産重点強化整備事業補助金の予算措置がされていない。事業の周知努力不足では。

答 今回は申請がなかった。広報活動に力を入れていく。

大友 啓一 委員

**石仏公園に
トイレの設置を**

問 石仏公園内にバーベキューなど飲食のできるスペースがあるが、近くにトイレがないのを不便に感じている方が多い。市民の要望の高い、トイレ設置の考えはないか。

答 前向きに検討しているところである。

建設課

久 勉 委員

**若者向け公営住宅
建設しないのか**

問 総合計画では若者向け公営住宅建設の検討とあるが、どう検討してきたのか。

答 庁舎内の関係課と検討を重ねている。30年度は公営住宅の長寿命化計画を策定する。今後、現況確認や住民の意向を確認して計画していく。



きれいになったバーベキュースペース トイレがあると町外にもPRしやすい

特別会計

国民健康保険
病院事業会計

遠藤 釈雄 委員

今後の病院運営

地域医療の実践を

問 町が目指す地域包括ケアは地域医療の実践が要となる。町民医療福祉センターはこれまで、医師や健康推進員が一体となって地域医療の浸透に努め、病院への求心力を高めてきた。新管理者には地域医療の実践を念頭に、病院管理をしてもらいたい。

答 新管理者は地域医療に詳しい。涌谷町国保病院の運営理念をさらに理解してもらい、今後の病院管理をお願いする。

訪問看護ステーション事業会計

佐々木敏雄 委員

訪問看護サービス

周知は十分か

問 在宅支援に必要なサービスであるが、利用者数が伸びていない。訪問看護のサービスを知らない人が多いのではないか。

答 周知については、医療機関やケアマネージャーを中心に、管理者自らが訪問を行っている。



事務所は町民医療福祉センター内にあります

予算審査

平成30年度予算 討論

大泉 治 議員

賛成

少子化対策・定住人口の獲得・人口減少社会への適応に特に重点をおいた内容となっており、大橋町長の「活力のある涌谷町」をめざした施策が随所に見られる。

子育て施策では、保育所及び幼稚園の負担軽減策が、父兄や職員の負担軽減にとどまらず、待機児童の解消にもつながっている。これは、行政の使命である平等なサービスを基本に、幼児の保育と教育という本来の機能に立ち返った職員の考え方が効をなした結果と考えられ、その努力を大きく評価したい。また、住民は行政に求めるだけでなく、自らそのような意識を持てるように理解してもらう努力が大切と考える。

移住・定住策においては、様々な補助金制度を網羅した「わくや新生活応援補助金」の創設。川崎市ふれあいサマーキャンプの受け入れ。他市町村にはみられない「金のいぶき」によるブランド米創出事業など、沢山の新規事業が取り入れられている。

財政的には、大崎広域事務組合への負担金が大きく、今後は注視していかなければならない中で、事業進行にあたってはスクラップアンドビルドの考え方をこれまで以上に浸透させ、工夫に工夫を重ね限られた財政の中で、職員の努力によって最大の効果が生まれることを期待して賛成討論とする。

稲葉 定 議員

反対

歳入のなかで、地域振興公社への貸付金が予算計上されていないのはどうしてか質疑した際、現金主義だからとの答弁があった。

財産売り払い収入は計上しており、整合性が取れないと考える。

このことから、予算書そのものに対する信頼性に問題が生じる。よって、この予算書で審議した平成30年度予算案は正当性に揺らぎが出てしまうので反対する。

3月会議採決状況

○：賛成 ×：反対 議長は採決に加わらない

件名	竹中弘光	佐々木敏雄	佐々木みさ子	稲葉定	大友啓一	只野順	後藤洋一	久勉	杉浦謙一	門田善則	大泉治	鈴木英雅	遠藤釈雄
平成30年度涌谷町一般会計予算	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

3月会議 議案審議

議案審議

条例の一部改正など、議案21件を原案どおり可決。町の歴史文化を次代に継承する目的で、涌谷町歴史文化基金条例を制定。
涌谷町介護保険条例の一部を改正し、第1号被保険者の保険料を月額6000円（基準額）に。

議案第3号 涌谷町歴史文化基金条例

涌谷町に育まれてきた固有の歴史文化を顕彰し、次代に継承しながら魅力的なまちづくりを生かす基金として条例を制定するもの。

主な質疑

文化財の修復は計画的に

問 文化財の修復について、年次計画を立ててわかりやすく行っていくべきではないか。

答 文化財保護委員会からも意見をいただき、年次計画を立てて進めていくように努力していく。

議案第4号 涌谷町指定居宅介護支援事業者の指定に必要事項並びに指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例

法律の改正に伴い、町が実施する事務について、条例を制定するもの。

主な質疑

訪問介護回数に制限が定められ、超過時には市町村へ届け出が必要となる、などの改正が行われる。

訪問介護利用制限回数超過の場合は

問 サービスの制限回数を超過する場合、何を基準に判断するのか。
答 利用者の生活実態などを地域ケア会議で審査し、介護保険に該当するか速やかに結論を出す。

議案第14号 涌谷町介護保険条例の一部を改正する条例

法の規定に基づき、平成30年度から平成32年度まで（第7期）の第1号被保険者の保険料を定めようとするもの。

介護保険料 第6期と第7期の比較

	基準額 (月額)	比較 (第7期-第6期)
第6期	5200円	-
第7期	6000円	800円増

反対討論

杉浦 謙一議員

3年前の改正でも保険料は増額された。今回の増額により、当時と比較すると保険料が1・5倍となっている。一般会計からの繰り入れを行い、値上げを抑えるべきである。

この間、介護保険は要介護者の保険給付が外され、要支援1・2と認定された方の訪問介護、通所介護が給付から外された。

また、特別養護老人ホーム入居基準が要介護3以上へ限定され、高額介護サービス費についても、平成27年8月から一定以上の所得のある方の利用料が2割負担へと引き上げられ、今年8月からは3割負担に引き上げられる。
必要とする介護が保障される制度になるよう期待し、反対する。

3月会議採決状況 ○：賛成 ×：反対 議長は採決に加わらない

件名	竹中弘光	佐々木敏雄	佐々木みさ子	稲葉定	大友啓一	只野順	後藤洋一	久勉	杉浦謙一	門田善則	大泉治	鈴木英雅	遠藤积雄
涌谷町介護保険条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	議長

人事案件に同意

固定資産評価審査委員会委員

高橋洋雄氏
齋藤正俊氏

人権擁護委員

村上和郎氏

平成29年度 補正予算

一般会計

繰越明許費

道路新設改良事業

繰り越しの原因は

問 計画的に事業を進めていけば、繰り越しをしなくてもいいのではないか。原因はあるのか。

答 事業に着手するまでに、関係地権者との交渉や詳細な設計内容を詰めていくと、どうしても工事発注までに時間を要する。

一般会計始め、平成29年度補正予算10件を原案どおり可決。

年度内に事業が終わらない見込みであることから、2件総額5955万円を次年度に繰り越し。ふるさと納税は見込みより伸びず歳入減。

歳入

ふるさと納税
町外の職員からも協力を

問 町の活性化のためには返礼品を工夫するのでもいいが、町外在住の職員からの協力はもたれないのか。

答 あくまでも寄附であり、こちらから強い働きかけはできないが、町外から来ている職員については、おおむね寄附をしてもらっている。



歳出

地域おこし協力隊

問 平成29年度はどういった活動を行ったのか。

答 涌谷町の資源を活用したわくわく涌谷発見ツアーは、涌谷町内の生産者の方々に協力いただき、町内外から参加者を募り、町の特産品のPRを行った。そのほか、涌谷町の金のいぶきを使った甘麴や、*アイスクリームなども研究を進めているところである。

*「埋蔵金アイヌー黄金花咲く伝説」を5月3日に発売しました。
天平ろまん館、わくや天
平の湯で購入が可能です。

国民健康保険 病院事業会計

一般会計からの繰り入れ
なぜ3月に

問 これまでは繰り入れは12月だったがなぜこの時期になったのか。

答 財政局と協議を行い、最終的に、29年度の決算見込みができるだけ正確に見込めるタイミングで行うという方針のもと、3月補正にした。

改革プランの目標数値
達成に向けて

問 内部の各部門の職員とよく話し合い改善すべきところをきちんと新しい事業管理者に伝え、改革プランの数字に近づけるような努力をしてもらいたい。

答 改革プランのハードルは非常に高いものがある。

ただ、高いからできないではなく、きちっと認識を一新しながら、目標達成に向け努力することが公営企業会計の宿命である。新しい事業管理者と相談をしながら、何をどう直していかなければならないのか一つひとつ積み上げた対応をしていきたい。

病院の方向転換
必要では

問 在宅でのケアに向けて、病院の方向転換を徐々にしていかなければならないと思うので、十分検討してもらいたい。

答 医療連携室、メデワーカーを3名配置しており、各病棟においても入院退院調整担当の人員を3名ずつ配置した体制で取り組んでいる。今後とも地域包括ケアシステムの推進に向け努力していく。

補正予算

ズバリ

一般質問

3月会議では、3月8日、9日に一般質問が行われ、9人の議員が町政全般について質問をしました。

質問と答弁は、質問した議員が600字以内で要約し、広報分科会委員が調製したものです。

町のホームページでは、動画の録画配信を行っていますので、そちらもぜひご覧ください。

涌谷町ホームページ URL
(<http://www.town.wakuya.miyagi.jp>)
一般質問動画配信ページ QRコード



町政をただす

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについての考えを問い、報告や説明を求め、よりよい方向へ導くものです。

後藤 洋一 議員 (13 ページ)

- 1 「住みたい」、「住んでみたい」、と思う魅力あるまちづくりについて問う

只野 順 議員 (14 ページ)

- 1 安全・安心のまちづくりについて

竹中 弘光 議員 (15 ページ)

- 1 町営住宅の整備・改修について

久 勉 議員 (16 ページ)

- 1 涌谷町の教育行政のあるべき姿は

門田 善則 議員 (17 ページ)

- 1 学力向上の取り組みについて

杉浦 謙一 議員 (18 ページ)

- 1 障害者総合支援法による意思疎通支援策について問う
- 2 放射能汚染廃棄物の安全な保管の考えは

大友 啓一 議員 (19 ページ)

- 1 健康パークの整備が必要と思うが今後の計画を問う
- 2 小・中学生のネット依存防止について

佐々木敏雄 議員 (20 ページ)

- 1 地域包括ケアシステムの構築と病院の方向性について問う
- 2 まちづくりと農業振興地域整備（農振）計画の考えについて問う

稲葉 定 議員 (21 ページ)

- 1 涌谷町の農業政策を問う



問

まちづくり復活のための施策は

答

市街地の計画的な整備促進を図る

後藤洋一 議員



問

町長は「まちづくり復活」を掲げている。就任から約2年半が経過し、現在のまちなかの状況を見て、どう思うのか、今後の施策についての考えは。

町長

平成11年に、「中心市街地活性化基本計画」を策定し、計画的に土地利用の推進を図ってきたが、町の市街地は幹線道路沿道への大型店や企業の立地など外延化が進む一方で、中心市街地は空き店舗が目立つなど、空洞化が進んでいる。

今後は、中心市街地の再生に向けて魅力あるまちづくりを進めるとともに、県が平成30年度に策定を予定している「大崎広域都市計画マスタープラン」との調整を図りながら、町の計画の見直しを含めた市街地の計画的な整備促進を図っていく。

問

空き家・空き地の適正な管理を進めるためには、どのような対応策が必要と考えるか。

町長

管理不全な空き家・空き地に対しては、「空き家対策特別措置法」に基づいた管理依頼を所有者に対して通知している。

また、管理不全の空き家・空き地の所有者は、町外在住の方が多く、通知を受けて初めて管理が必要なることを知ることが多いので、問題解決に向けて適正な管理をしてもらうよう、今後も依頼していく。

問

「住んでみたい」と思う若者向け低所得者住宅について、現在、政策空き家となっている一本柳・淡島町営住宅を早急に建て替えできないか。

町長

各種計画との整合性を図り、若い人が住んでみたいと思うような、定住・移住も含めた住宅政策を関係課と連携のもと検討し、建て替え計画を策定していく。



町一番のにぎわい通り お祭りシーズン以外はひと通りもまばら

問 防災への決意と団員の確保は



只野 順 議員



答 過重な負担とならないよう予防活動に努めてもらう

問 東日本大震災から7年になる。涌谷町も大きな被害を受けた。町民の安全安心は地域防災力で守られている。しかしながら、団員の減少で防災力が低下してきており、団員の確保が急務となっている。町は実情に合わせて定数を300人に減らした中で、団員確保の具体的な取り組みはあるのか。

総務課長 防火査察などの事業の際に、行政区長さんや自治会長さんにも、団員募集の声をかけてして団員確保に努めている。また、会社勤めの団員が多くなっていることや、年間事業量が多いことも要因と思われるので、機能別消防団員制度の導入や、団員が消防活動に参加しやすい環境を検討していく。

総務課長 世話係会運営費として補助金を交付しており、適切に支援をしていく。日中の消防団員の数を把握し、状況によって検討が必要と考えている。また、現在10人の女性団員がいるが、式典や各種行事、広報活動が中心である。活動内容を消防団幹部の方々と相談しながら進める。

問 防災無線の運用と、難聴地域の解消は、
総務課長 難聴解消の経費に2000万円ほどかかるため、より安価な個別無線機などの検討をしている。費用面で国の制度活用等ができないか考慮する。

問 防災に対する決意と団員の確保を再度聴く。

町長 団員に過重な負担とならないように、体が空くときを利用して予防活動に努めてもらいたい。



地域の防災活動は消防団員が 町をあげて団員の確保を



町営住宅の老朽化は待ったなし 統合や建て替えの検討が必要

問 淡島住宅と一本柳住宅の統合の考えはないのか。入居者から老朽化が指摘されているが。

町長 建設等の計画を立てた上で、住宅の集約や適地への住宅建設を盛り込んでいく。統合となると、建物・設備の改修や現在の入居者の引っ越しなど多くの課題を解決する必要がある。現在地は公共下水道の区域外となっており、買物先への利便性を含め、中心部への移転などを考慮し、最も有効な町営住宅の活用方法を検討していく。

問 涌谷町の単独事業として、一戸建て住宅の建設はできないか。所得制限がなく入居者を募集すれば、企業誘致での従業員を受け皿と考えるが。

町長 各種計画との整合性を図りながら、民間活力の導入なども含め、定住・移住を視野に入れた住宅政策を関係課連携のもと検討し、計画を策定していく。



竹中弘光 議員



問 町営住宅の統合の考えは

答 最も有効な活用方法を検討していく

問

教育行政のあるべき姿は



久 勉 議員

答

現場の教育力を最大限に生かしていく体制を整える

問

涌谷の教育への思いを聴く。

教育長

中学校の教諭、
教頭、指導主

事、高校の校長と経験した中で、教員の仕事とは、目の前の子どもを何とかしようと、子どもの健全育成に寄与することであると考えている。

まだ全体像をつかんでいないので、早く実態を把握し、課題を見つけ解決に取り組んでいく。特に、特別活動では涌谷中学校のソフトボール、涌谷第一小学校のマーチングバンドなど、すばらしい成果を上げている。一方で、学力は低下傾向にあり、早急に対策に取り組む必要がある。

次代を担う子どもの健全育成と確実な学力の保障のために、教育委員会の使命は、教師の確保と育成、校内研修の充実、教育現場の支援・応援を行い、教育力を最大限に整えていくことであると考えている。

問

総合計画と教育計画、新年度の重点施策の項目の整合性が取れていない。また、例年作成している教育委員会の活動状況の点検・評価の結果が、次年度の施策にどう活かされ、工夫されているか、わかりやすくするよう改善を求める。

先生方が誇りとやりがいを持って働き、子どもたちは伸び伸びと学び遊び、保護者は安心して預けることのできる学校づくりを期待する。

教育長

しっかりと点検を行い、次年度の計画に結びつけた。また、30年度は校長が3名替わるので、連携を取り、計画に基づき実行していく。



これからのまちづくりの担い手は子どもたち 笑顔があふれる町に



涌谷の子どもたちの可能性を広げるには、町・学校・家庭の連携が必要

問 ※全国学力テストから見る涌谷町の状況は。

教育長 今年度の状況は、小学校国

語については県平均をやや下回る結果となっている。小学校算数、中学校国語、数学については、全て県平均を下回る結果となっているのが現状である。これは、下位層が多く上位層が少ないため、全体の平均を押し下げていると分析される。深刻な状況にあると認識している。

問 今後の課題と対策については。

教育長 学校と十分に協議を行い、

できるところから取り組みを開始したいと考えている。

具体的には、指導する先生方のレベルアップや児童・生徒の学習する習慣・生活習慣の重要性も理解していただき、家庭とも協力していく。

問 教育委員会として学力向上に向けて検討委員会などをつくってはどうか。仙台市の例がある。

教育長 今後、教育委員の方々と相

談しながら考えていく。
問 民間の学習方法を取り入れ、学力向上を考えてはどうか。

教育長 仙南の地域で

そういった経験はある。しかし、委員会として押しつけはしない。

※全国学力テスト
 ・小学校国語、算数
 ・中学校国語、数学
 それぞれA問題とB問題があり、A問題は知識に関する問題、B問題は活用に関する問題となっている。

問 学力向上の取り組みは

答 家庭と連携し、学習習慣を身につける



門田善則 議員



問

意思疎通支援者の活用を



答

需要があれば積極的に利用していく

杉浦謙一 議員



さまざまな人に配慮したやさしいまちづくりを



毎日休まず測定中

一般質問

問

障害者に対する支援では、市町村が実施する地域生活支援事業の必須事業として、意思疎通支援を行う者の養成などの事業を追加している。当町での養成の考えは。

町長

大崎1市4町合同で手話奉仕員養成講座を開催しており、昨年度も、涌谷町では2名が修了した。

問

手話または文字によるコミュニケーションが必要な方々のために、町主催の行事でもみやぎ通訳派遣センターを利用すべきと考えるが。

町長

昨年の敬老会において、みやぎ通訳派遣センターから手話通訳を行った実績がある。今後も町主催行事で需要がある場合には積極的に利用していきたい。

問

放射能汚染廃棄物
安全な保管状況を視察すべきでは

答

他市町へ現況を見に行きたい

問

モニタリングポストは、センサーが入った箱が厚いコンクリート土台の上の鉄板の上に置かれ、真下の地面からの放射線が何重にも遮断されるようになっていいる。福島では、サーバーイメーターの線量と比較してみると、モニタリングポストの数値は半分にしかならなかったと報告されている。設置したモニタリングポストの役割はどんなものか。

町長

説明会では、不安視する声が多くあった。混焼の実施時には、安心を確保する必要があることから、環境省で常時監視のモニタリングを設置した。

問

他市町の安全な保管を視察すべきではないか。

町長

実際に現況を見に行きたいと思っている。

問

※ SNS 指導や防止対策は

答

安全利用教室を実施し、指導していく

問

ネットなどの利用が長いほど体への影響を感じる生徒が多くなる傾向が見受けられる。学力低下にも結びついていないのかと思うが、町内の小・中学校の調査をすべきではないか。

教育長

文部科学省のアンケートや東北大学の教授らで調査が行われており、スマートフォンなどの利用が学校の成績に悪い影響を及ぼしていることが明らかになっている。当町においては、全国学力調査の際に生活習慣のアンケートを行っている。

問

SNSなどによる、いじめや事件などに巻き込まれないような指導と防止対策は。

教育長

学齢に応じた質の高い情報モラル教育を実施するため、警察と通信事業者が相互の専門性を生かした安全利用教室を実施しながら指導していく。県教委でもスマートフォン、携帯などの使用について問題視しており、「考える・話し合うリーフレット」を作成し、各家庭に配布して啓発活動をおこなっている。

問

健康パークの吊り橋を含め、管理・整備がなされていないようだ。今後どのような計画があるのか伺う。

町長

吊り橋については、老朽化によって使用できない状態であり、修繕等の工事について検討しているが、費用的にも大きい負担となることから、将来のことも考え、撤去の方向性で検討していく。

問

健康パーク内にある貯水池は常に枯渇しているが、利活用の計画があるのか。また、地域振興公社が社団法人に変わった機会に、町の目玉となるように年次計画を立てて整備すべきと思うがどうか。

町長

貯水池については、景観も考慮し、湿地を好む植物の定植なども含めて、本来の目的に沿った形で天平の湯などと一体的に進めていく。



もう少し周辺の環境、景観に配慮を

問

健康パーク吊り橋 今後は

答

撤去の方向で検討していく



大友啓一 議員



※ SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) インターネットを介してコミュニケーションを図ることができるサービスの総称。



佐々木敏雄 議員



問 介護施設サービス不足の対応は

答 切れ目のないサービスが受けられるよう支援する

問 宮城県地域医療構想や医療整備計画では、2025年に涌谷町で介護施設が足りず、1日約90人程度の介護難民が出る見込みである。対応は。

町長 開設以来行っている保健・医療・介護・福祉の連携を密にした地域包括ケアシステムを推進する。近隣の医療・介護施設と連携し、切れ目のない「医療・介護サービス」を受けられるよう支援する。

問 国保病院の医師の高齢化や退職が目の前に迫っているが、医師まで解任する意義と今後の医師確保をどうするのか。

町長 医師確保には苦慮している。地道に各方面へ働きかけ医師確保に努める。



姉妹友好都市デンマーク王国ソロー市長と親書を交わした青沼前事業管理者（2008年10月）

問 3月末で解任される事業管理者は、医療福祉センター建設当初から30猶予年間、涌谷町のために大きな働きをしていただいた。行政報告に一行も触れていないが、町の代表者として、管理者に対しての思いや感謝の念、ねぎらいの言葉があつて然るべきと思うが。

町長 開設当初からの貢献については評価している。

町長 住宅地は市街地に連なる地域や農業上の利用が困難な地域などを設定している。人口の定住化を図るため生活環境や商工業地域の整備を推進し、農林業との調和を図り、健全で機

問 農振（農業振興地域整備）計画は、まちづくりや地域振興を阻害することもある。新たな企業の誘致も大切だが、既存企業の事業拡大や規模拡張時に、用地取得などの支援策（農用地区域の除外を含め）を速やかに差し伸べることも行政サービスの姿勢と思うが。今後の「農振計画」と「まちづくり」の構想をどう調整したか。



農振計画とまちづくり バランスのとれた機能的なまちに

問 まちづくりと農振計画について問う

答 健全で機能的な町の将来像を描いていく

能的な町の将来像を描いていく。



JA 合併の影響は未知数 町は農業と農家を支援する対策を

問 地場産品を育てるのには、今後、再統合するJAでは頼りにならなくなる恐れがあり、町にも影響があると思うが対策を考えているか。

町長 合併自体はJAのことであり推移を見守るが、話し合いは継続していく。地場産品は一朝一夕にはできない。「金のいぶき」などを各機関と協力して作っていく。

問 新JAは小規模農家、零細農家を切り捨てる心配もある中、定年帰農や農村移住者などを支援する取り組みはないのか。

町長 特定園芸作物に対して交付金を設定しており、農地利用を有効に活用するようしたい。

問 農業共済制度が大きく変わり、収入保険が平成31年度から始まる。要件である青色申告の記帳指導をすべきではないか。

町長 記帳指導はJAで行っており、町では取り組む考えはない。

問 水稻共済の任意加入移行に伴い、無保険農家が発生する可能性がある。町の対応は。

町長 収入保険や他の制度など、有利な制度活用となるようN O S A I と協力していく。

問 JAの合併 町の対応は

答 話し合いを持って事業を進めていく



稲葉 定 議員



常任委員会活動レポート

議会では、本会議開催期間以外にも、各常任委員会や分科会、議会運営委員会で活動を行っています。

3月会議では、2月6日から7日に実施した議会運営委員会の行政視察研修報告と、広報広聴常任委員会の中間報告が行われました。

委員会報告

視察研修

議会運営委員会

視察地

岩手県久慈市

視察研修内容

- (1) 議会報告会の政策提言への活用
- (2) 議会改革の検証

涌谷町議会報告会の現状と課題

平成21年から議会報告会を開催

現状

- ・対面型の町政報告会と変わりなく、行政や議会に対する要望、不満の意見が多い
- ・参加者が限られた人ばかりで集まりが悪い

課題

もっと町民の意見を吸い上げ、政策提言につなげたい

久慈市議会の取り組み

かだつて会議

無作為抽出の市民と議員が少人数のグループに分かれ、外部ファシリテーター(司会・進行者)進行のもとワールド・カフェスタイルで話し合いを行う。

しゃべり場

開催希望団体などを公募し、議員が出向いて議会報告会を行う。意見交換は議員がファシリテーターとなる。

多くの市民から意見を聴取するよう取り組み、集約した意見を政策形成し、執行部に提言するよう取り組んでいる。

涌谷町議会として

住民の意見を集約し、議会としての政策提言・政策形成に結びつける。そのことが、議員個々の資質の向上につながり、目指すべき議会改革と議会運営に資すると考える。

中間報告

広報広聴常任委員会

委員会の

所掌事項の内容

議会報告会、議員研修情報の提供及び広聴に関する事項などの委員会活動に加え、それぞれの分科会で活動を行った。

① 広報分科会

・議会広報誌の編集及び発行

・議会広報活動の実施

・議会広報の調査及び研究

② 広聴分科会

・広聴活動の実施

・議会報告会及び議員研修の準備

・情報の提供及び広聴に関する事項

委員会活動の目的

・議会報告会(懇談会)を開催することにより、説明責任を果たし、議会活動や町政に対する意見・要望・提言を聴取する。

・議員の資質及び政策立案能力の向上を図るため、議員研修会を開催する。

活動の結果及び意見

議会報告会(懇談会)を開催し、議会で議論された内容を説明し、議会活動や町政に対する意見・要望・提言を聴取し、執行部に照会するとともに政策提言を行った。課題として、「参加者の増加策や年代の偏り」、「要望を聴くだけで意見交換を行う時間がない」などがあり、解決に向けて検討を行う必要がある。

また、議会の活性化及び議員の資質向上、政策立案能力の向上を目的に議員研修会を開催した。今後も研修会を継続的に開催し、議会懇談会のあり方の検証と議会力の向上のため継続して研修会を行っていく。

皆さんの請願・陳情

平成30年陳情第1号

「災害公営住宅（復興公営住宅）」家賃軽減ならびに被災者医療等一部負担金免除の継続・復活を求める陳情書

陳情者

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター
網島 不二雄

審査の結果

配付となりました。

平成30年陳情第2号

障害者の暮らしの場の充実を求める意見書採択のお願い

陳情者

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会
会長
中内 福茂

審査の結果

配付となりました。

平成30年陳情第3号

「給与所得等に係る市町村民税・県民税特別徴収税額の決定・変更通知書（特別徴収義務者用）」マインナー記載の中止を求める陳情書

陳情者

宮城県保険医協会
理事長 井上 博之

審査の結果

配付となりました。

平成30年陳情第4号

栗原市の放射性廃棄物処理の隔離保管状況を検証し、住民の不安・保管農家の負担軽減を最優先する一括保管を求める陳情書

陳情者

放射能汚染から天平の郷土を守る涌谷の会
共同代表
櫻井 伸孝 ほか1名

審査の結果

総務産業建設常任委員会に付託し、審査することとなりました。

議会懇談会

議会だよりわくやNo192の議会懇談会の特集の中で、掲載するべき質問と回答が漏れておりましたので、今回改めて掲載いたします。

質問要旨

・毎年「広報わくや」に貸借対照表が掲載されるが、真実を表しているのか。本体となる固定資産（構築物・車両運搬具）の減価償却、土地の再評価はしているのか。

・1980年代のバブル期に買った土地等は再評価されずそのままになっているのではないか。それを使って、赤字、赤字というのは、本来あり得ないのではないか。

回答

一般会計・特別会計

庁舎などの建物、車両、工作物は定額法によって、毎年減価償却を行っております。土地については、平成22年度の固定資産台帳の作成時点の評価額を基に算定しており、その後取得した土地は取得価格、無償で取得した土地は固定資産評価額を基に算定した額により計算しております。

企業会計（病院会計）

病院の使用している土地は、一般会計で取得しております。土地は、病院の資産ではないため、病院の貸借対照表には載っておりません。建物については、減価償却はしておりますが、再評価は義務ではありません。行っておりません。改修などを行った場合は、古いものを削除し新しい物を資産台帳に載せています。

以上のとおり、適切に管理されております。

1月第2回会議 (1月15日開催)

同意 第1号

涌谷町教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて

笠間元道前教育長の退任に伴い、新たに佐々木一彦氏を教育委員会教育長に任命し、議会の同意を求めるもの。

任期は前任者の残任期間となる平成31年11月28日まで。

賛成全員で同意



3月会議で答弁する
佐々木一彦 新教育長

請願・陳情

議会に皆さんのご意見をお寄せください。

キラキラ Voice

vol.4



右から
齋藤常浩さん
瑞樹くん
祐子さん
(下小塚区)

Q あなたのことを教えてください。

A 10年前に湧谷に戻り実家の農業を継いで、酪農と稲作を中心とした農場を経営しています。

湧谷町のよさこいチーム「祭・WAKUYOSA舞桜」としても活動しており、今年も「みちのくYOSAKOIまつり」にチームで出場する予定です。

Q 議会についてどう思いますか。

A 子育て・教育・産業・まちづくりと、人生のステージが進むにつれ関わる項目が増え、議会だよりを通して、生活と密接な関係があると再認識しました。

限りのある予算ですが、将来への費用対効果が高く、実現可能な施策からスピード感を持って実施してもらいたいと思います。

Q 湧谷町をどういう町にしたいですか。

A 都会に比べるととても住み良く、子育てしやすい町だと思います。楽しく生活し、仕事にやりがいを持ち、笑顔あふれる町になってほしいです。

また、次世代を担う子どもたちに、湧谷の歴史や伝統文化、自然や産業に誇りを持ってもらいたい、たとえ湧谷から離れても、また湧谷に戻りたい、と思ってもらえる湧谷町であってほしいです。

議会から

湧谷町はとても住みよく、子育てがしやすい町とお話があり、大変うれしく思います。

今後、町の次代を担う子どもたちが、ずっと湧谷町に住み続けたいと思えるよう、町民のみならずと共に考え、活動していきます。

議会を傍聴

しませんか

次回の定例会は

6月下旬ごろ

開催予定です

詳しい日程と一般質問の内容は、後日配付の「定例会のご案内」でお知らせいたします。場所は役場西庁舎2階です。詳しくは、議会事務局にお問い合わせください。

☎ 43-2127

一般質問を 動画配信しています。



当議会では、議員ごとの一般質問の内容を、湧谷町ホームページで動画配信しています。ぜひご覧ください。

編集するまん

だより

新年度がスタートして新しく入園、入学した子どもたちを拝見させていただきました。

私の子どもの頃は幼稚園もなく、農繁期の一時託児所が開設されていたものです。あの頃を思い返すと、今の子どもたちの方がはきはきした返事や表現ができ、時代のうつろいを強く感じます。単純に比較するものではありませんが、整った環境を精一杯使って、のびのびと育ってほしいと願うばかりです。

私たちも、子どもたちの成長のバックアップを精一杯頑張ります。

(稲葉 定)

編集 広報広聴常任委員会広報分科会

分科会長 只野 順

副分科会長 竹中 弘光

委員 鈴木 英雅

委員 稲葉 英定

委員 佐々木 みさ子

委員 佐々木 敏雄